

学校だより

希望 共生 個性



かないずみ

令和6年1月17日 NO. 8 佐渡市立金泉小学校

「ユーモア」を磨く

校長 矢嶋 義宏

1・2年教室の掲示版に、1年生が考えた詩が掲示してありました。とてもユーモアがあつて素敵なので紹介します。

学校のゆめ
学校もみんなとあ
そびたい。
ーばん おにごっ
こがしたい。

とけいのゆめ
たまには、きゅう
けいしたい。
たまには、はやく
はしりたい。

2つの詩とも「擬人法」という技法が用いられています。「擬人法」とは、生物でないものに生命感を与えたり、人間以外の生物に人間的な感情を与えたりして表現する技法です。上の2つの詩では、「とけい」と「学校」という生物ではないものに対して、もし、命があつて感情があつたらどうかと想像を広げて表現していることに面白さがあります。

「とけいのゆめ」の詩では、いつも同じ速さで進むという時計の特性に着目して、それを当たり前ととらえないところに面白さがあります。この詩をつくった子どもは、のんびりと休憩する楽しさも、爽快に速く走り抜ける楽しさも両方知っているのでしょう。また、「きゅうけいする」と「はやくはしる」ということが対の関係になっています。このことによって、時計が「一定に進む」ということが強調され、巧みに表現していると感じました。

「学校のゆめ」の詩では、遊び場である「学校」は、いつも自分たちが遊んでいる様子を見守っているという視点に立っているところに面白さがあります。そして、きっとこの詩をつくった本人自身が「おにごっこ」を大好きなのでしょう。「おにごっこ」が楽しいということを伝えるとともに、建物である学校は動けないので、「おにごっこ」をしたくても、本当はすることができないという「もどかしさ」をユーモラスに表現していると感じました。

私は、「ユーモア」な発想ができる人って素敵だなと思います。「ユーモア」は自分だけでなく、周囲の人を楽しくさせ、幸せな気持ちにさせてくれるからです。

では、どうしたら、そんな「ユーモア」のある子に育つのでしょうか？

その鍵は、あたたかな人と人とのかかわりにあると私は思っています。

さて、上の2つの詩は、1年生の2人のうち、どちらのお子さんがどちらの詩をつくったのでしょうか？

答えは、18日（木）の授業参観の折に、1・2年教室の廊下の掲示版でご確認ください。

1・2月の主な予定



【1月】

- 9日(火) 始業式・給食後下校
- 10日(水) 校内書き初め大会
- 11日(木) 身体測定
- 16日(火) 委員会⑮
- 18日(木) 授業参観
5年保護者会
- 19日(金) 児童朝会
- 23日(火) クラブ⑧(3年生見学)
- 24日(水) NRT学力検査(算)
- 25日(木) NRT学力検査(国)
- 30日(火) 全校5限後下校

【2月】

- 1日(木) 校内なわとび大会、
全校5限後下校、
PTA役員会・改選全体会
- 2日(金) 全校朝会、全校5限後下校
- 6日(火) 新1年生体験入学・保護者説明会
全校5限後下校
- 8日(木) スキー教室
- 9日(金) 全校5限後下校
- 13日(火) 委員会⑯、学校運営協議会
- 14日(水) 諸費納入日、中学校入学説明会
- 16日(金) 音楽朝会(六送会の歌)
- 19日(月) 家庭学習強調週間(25日まで)
- 20日(火) クラブ⑨
- 21日(水) 六送会、PTA総会、学級懇談会
- 26日(月) わくわく朝会③、全校計算テスト
- 27日(火) 委員会⑰
- 29日(木) 全校漢字テスト

書き初め大会の様子



「一生懸命は美しい」